

常設展示

商品



当初は貿易商品のサンプルと商品の原材料標本が収集されましたが、その後、地方物産品の収集がはじまり、現在では陶磁器、漆器、染織品などの伝統的工芸品を展示しています。かつて秘密のペールに隠されていた原料

と製造過程は、価格形成上の要因として付加価値を示す根拠でもあります。展示では、卓越した職人技と地域色に価値付けられた少量・多品種による高付加価値商品としての現状を紹介しています。

刑事



過去にあった残酷で非人間的な拷問や刑罰を批判的な視点から回顧し、法と刑罰の歴史を学び、現代の法と社会を考えるきっかけとするために古代から近世にかけての刑法典や江戸時代の警察・裁判・刑罰にかかわる資料を

紹介しています。御成敗式目、今川仮名目録など著名な刑法典の数々をはじめ、高札、長柄三道具や十手・捕り縄など江戸時代の捕者道具と、取調べの過程で使用された拷問具、刑罰具や近代の死刑具、さらには海外の刑罰具などの復元資料も展示しています。

考古



日本列島における旧石器時代の存在をはじめ証明した1949年岩宿遺跡の発掘以降、日本考古学の発展に貢献した明治大学による調査研究の歩みとその成果の数々を展示しています。岩宿遺跡出土石器(重文)、旧石器集落

を明らかにした砂川遺跡出土石器(重文)、縄文時代の年代観を大きく変えた夏島貝塚出土遺物(重文)、遮光器土偶、稲作開始期の板付式土器、深草遺跡の石包丁、出流原遺跡の再葬墓資料(重文)、玉里舟塚古墳の大型埴輪群(写真)など見どころ満載です。

明治大学博物館友の会

講演会、見学会、自主学習会、会員間の交流イベントなどを開催するとともに、明治大学博物館のパートナーとして各種ボランティア活動を展開しています。活動内容や会員募集など、詳しくは館内で配布のリーフレットまたは当館ウェブサイトをご参照ください。

来館案内

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、常設展示及び特別展・企画展の開館日や開館時間を変更することがあります。来館前に当館ウェブサイト等で最新情報をご確認ください。

開館時間 月曜～金曜 10:00～17:00(入館は16:30まで)
土曜 10:00～16:00(入館は15:30まで)

休館日 日曜・祝日 夏季休業期間(8/1～9/19)の土曜
1/17 8/10～16 11/1 12/26～1/7

入場料 無料 特別展示室の催しは有料の場合があります

交通 JR御茶ノ水駅徒歩5分 地下鉄新御茶ノ水駅徒歩8分
地下鉄神保町駅徒歩10分

住所 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学アカデミーコモン地階
TEL03-3296-4448 FAX03-3296-4365
ウェブサイト <https://www.meiji.ac.jp/museum/>

オンラインコンテンツのご案内

● 明治大学博物館ONLINEミュージアム

<http://ict-museum-meiji.tokyo/index.html>

展示室を
あるく

じっくり
見る

展示会
アーカイブ



いつでも、どこでも、バーチャルミュージアムをお楽しみください

● Mm×おうちミュージアム

<https://www.meiji.ac.jp/museum/6t5h7p000034mig1.html>



資料解説の動画をはじめとするコンテンツを公開中です

● SNSによる情報発信も充実!



明治大学博物館 展覧会案内 2023

Exhibition Program of Meiji University Museum, 2023



収蔵庫のとおき — 知られざる逸品の数々 —

入場
無料

1月28日(土)～3月11日(土)

主催: 明治大学博物館

明治大学博物館では、45万点もの学術資料を収蔵しています。しかし、そのうち常時展示室で公開されているのはわずか2,000点にすぎないのです。本展では、出番を待っている資料のうち、当館の広報誌『ミュージアムアイズ』の人気コーナー「収蔵室から」で紹介された、雨滝遺跡の精巧なミニチュア土器(考古部門)や赤物玩具(商品部門)をはじめとする注目の逸品や、刑事部門が豊富に収蔵するさまざまな古文書を紹介します。



ミニチュア土器
(岩手県雨滝遺跡・縄文時代)

山岳部から極点へ — 植村直己・登山と冒険の足跡 —

入場
無料

3月24日(金)～5月15日(月)

主催: 公益財団法人植村記念財団 共催: 明治大学体育会山岳部

世界初の五大陸最高峰登頂や北極点単独到達を果たした冒険家・植村直己にとって、明治大学入学とともに山岳部に入ったことが冒険の始まりでした。それまで登山の経験はありませんでしたが、山岳部で自らを厳しく鍛え、卒業すると海外の山々をめざして日本を飛び出しました。以降、数々の記録を重ねていきますが、極限の自然の中で可能性に挑戦した行動は、時代を超えて私たちに大きな刺激を与えてくれます。原点である山岳部の活動とその後の冒険をご紹介します。



外国放浪の旅に出た時の
パスポートと英単語帳(1964年)

メディアにのった資料たち — 知っている資料を見つけよう! —

入場
無料

8月28日(月)～10月14日(土)

主催: 明治大学博物館

当館の収蔵資料は、教科書や雑誌に頻繁に掲載されており、2021年度の掲載申請数は460件に上ります。代表的なものが群馬県岩宿遺跡で発掘された「局部磨製石斧」、江戸時代の測量の様子を描いた「地方測量之図」などで、教科書にも掲載されることが多い資料です。この展示では、これらの重要資料の数々を一堂に展示します。展示品の中には、見たことがある! 知っている! という資料があるかも…。是非そんな資料を見つけてください。



「地方測量之図」
(葛飾北斎・江戸後期)

明治大学シェイクスピアプロジェクト 20年の軌跡

入場
無料

10月20日(金)～12月9日(土)

主催: 明治大学シェイクスピアプロジェクト

明治大学シェイクスピアプロジェクト(MSP)は2004年に第1回公演『ヴェニスの商人』を上演してから2023年の『ハムレット』で、20回の公演を迎えます。この間、MSPは毎回3,000人を超えるお客様にお越しいただき、多くの演劇人を輩出するなど、学外、演劇界でも注目を集めるプロジェクトへと成長してきました。今回の展示では、公演で実際に使われた衣裳・小道具や関係者の証言とともに、MSPの20年間の軌跡をたどっていきます。



2022年公演
『夏の夜の夢』
『二人の貴公子』から

東国の古墳文化の 実像を求めて

— 大塚初重と明大考古学 —

2023年 5月27日(土)～8月7日(月)

主催: 明治大学博物館

共催: 文学部史学地理学科考古学専攻

入場
無料

明治大学考古学博物館の初代館長を務めた故大塚初重名誉教授は、太平洋戦争から復員の後、発掘によって歴史を明らかにする考古学の存在に衝撃を受け、静岡県登呂遺跡の調査への参加を皮切りに、1950年に創設された考古学専攻と歩みをとる形で日本各地の遺跡の発掘調査とその研究に携わりました。中でも、長野県大室古墳群、茨城県虎塚古墳をはじめとする東日本の古墳文化を研究の中心に据え、実像を明らかにしてきたのです。

本展では、大塚先生が手がけた発掘調査による数々の出土品・調査記録とその関連資料から、その研究と市民への考古学の普及に対する情熱と足跡を振り返ります。



右: 茨城県玉里舟塚古墳の石棺

左: 大室225号墳を調査中の大塚先生
(1984年)



表紙写真

上: 茨城県虎塚古墳の壁画 下: 大塚先生による大室244号墳のスケッチ